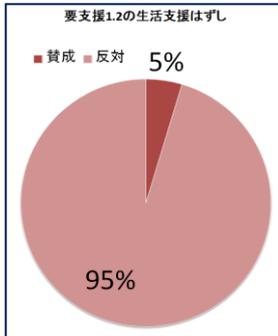


ほっかいどうの社会保障

2016年3月9日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

要介護1.2の生活支援・保険はずし 事業所95%が反対



厚生労働省は、社会保障費を抑制するため、社会保障審議会介護保険部会で、「要介護1、2」の人のヘルパーが行う在宅での生活支援のあり方などを見直す議論をはじめました。年内には結論を出し、2017年の通常国会での法改定をめざしています。調理、買い物などの生活支援を介護保険の対象からはずし自己負担になると、一割負担の人は一回約250円から約2500円に負担が増えることになり、高齢者や事業者などから批判が広がっています。

介護に笑顔を！道連絡会は、2月8日から1ヵ月間、この問題について、札幌市内の597の訪問介護事業所に郵送でアンケートを行い、86の事業所から回答を得ました。近く結果を記者発表します。

95%が保険はずしに反対

■買い物や調理等の生活支援が介護保険から外されることについて、どう考えますか。
賛成 4 (4.7%) 反対 82 (95.3%)

孤立や引きこもり、家計圧迫が心配

■「反対」と答えたに、その理由を聞きました。
高齢者の孤立や引きこもりを防ぐために必要 46 (56.1%)
利用者負担が増大し家計を圧迫するため 14 (17.1%)

栄養不足、孤独死の要因にも

「老々介護や認知症の方の支援が増えています。はずされると、在宅で生活できない方がたくさんいます」
「住み慣れた家で暮らし続けるには、専門的な介護職の目みる生活援助が必要です」
「買い物へ行くことが困難。近所にスーパーがない。宅配弁当は飽きる事が多くある」「買い物のために一人での外出は転倒リスクがある」「配食は経済的な負担が大きい」
「配食等、与えられたものを食べるだけでなく、本人の希望に

反対の理由や事例

より、何を買い物して、どのように調理するかなど、食に対する興味をもってほしい」
「調理をする能力にある方まで弁当をとりなさいというのでは、本人の意識の低下も引き起こし、ADL、QOLの低下となってしまう」
「病状の悪化・重症化、栄養不足、孤独死の要因」
「年金の少ない方にとって代わるサービスはない」
「家族の介護負担により心身とも疲弊します」

「処遇は改善されていない」介護労働者から悲鳴

介護ホットライン

2月21日の日曜日、道労連・介護対策チームが、介護労働者ホットラインを行い、道内各地の介護労働者から相談が寄せられました。

●共同住宅のヘルパーとして働く70代の女性からは、時給が765円で、最低賃金より1円高いだけ。夜勤は仮眠もとれずに働いていますが、処遇は改善されていません。●ディサービスで働く50代の男性は、人手不足で休みは取れないのでやむなく退職した。処遇改善もされなかった。●施設でフルパートとして働く女性は、利用者からケガをさせられたが、労災扱いにされずに、国保で対応していて、現在も休んでいます。フルタイムなのに、保険にも加入できず、基本給は最低賃金です。

相談員は一つ一つ丁寧に対応しました。他産業と比べても安すぎる賃金、劣悪な労働実態や労働基準法違反の恐れのある相談も寄せられ、介護職員処遇加算によって処遇が改善させていない実態も明らかになり、労働条件を改善させる取り組みを進めています。



学習会「介護制度のこれから 今すべきこと」

講師 服部万里子さん

とき：3月19日（土）19時～ 場所：TKP札幌ビジネスセンター5F（中央区北4西6） 参加費500円

介護保険 地域支援事業移行問題を考える集会

とき：3月25日（金）15時～ 場所：北海道労働センター会議室（東区北9東1）